

応急工作員(1/2)

1 仕事の内容

応急工作員は、護衛艦、掃海艇等に乗組み、火災や浸水から艦を守る仕事をしています。また、船体や機械部品等が損傷した際に溶接や旋盤の技術を活用し、部品を作成したり、修理を行います

2 仕事に就くために

教育隊終了後、機関要員として約1、2年間程度護衛艦等で勤務した後、第2術科学校の海士応急工作課程(5ヶ月)を経て、護衛艦の機関科応急工作員として艦艇勤務となります。

3 主な勤務地

全国5カ所の総監部(横須賀、呉、佐世保、舞鶴、大湊)等を母港とする艦艇部隊(護衛艦、掃海艇等)をはじめ、第2術科学校等の教育部隊など、全国の部隊等で勤務できます。2術校の課程を修業した隊員の多くは艦艇部隊で大いに活躍しています。



(機械工作作業)



(防火作業)



(防水作業)

応急工作員(2/2)

4 取得可能な資格及び免許

ガス溶接技能講習修了証、ガス溶接作業主任者、その他本人の努力次第により危険物取り扱い主任者、乙種6類消防設備士等公的資格を取得することができます。

5 ライフスタイル(10年間の配置換え等)

応急工作員の特技を取得するに当たって、年齢、性別、経歴、経験等の制限はありません。通常、教育隊終了後、艦艇勤務の機関要員として、1、2年の勤務を経て術科学校に入校し、修業後に部隊勤務を3年程度経験した後、初任海曹課程(教育隊)に入校、その後さらに数年の部隊経験を積み、それぞれの部隊において中核として活躍しています。

6 先輩からの一言

応急工作員の一日の流れ(例)

- 1 停泊中
0700頃 帰艦(出勤)
0800(1200)仕事
1200(1300)昼食、休憩
1300(1645)仕事
1730頃 上陸(退勤)
- 2 出港中
0600 起床
0615(0700)朝食
0800(1200)訓練等
1200(1300)昼食、休憩
1300(1700)訓練等
3時間程度で操縦室等で勤務



入隊当時の第2術科学校見学で、木工や溶接に興味を持って応急工作を希望しました。

海土応急工作課程では、熱意溢れる教官方から基礎的な知識を学び、切磋琢磨しながら同期達と充実した日々を過ごすことができました。

艦の命を左右する防火・防水訓練に励んだことも忘れられない思い出です。

現在は横須賀教育隊で防火実習の教官として誇りを持って仕事に取り組んでいます。

とても やりがいがある職種なので皆さんも是非希望してください。